

国語

(解答番号 ~)

※国語は「経済経営学部」および「人文学部」は必須。
「健康医療学部」および「バイオ環境学部」は選択。

社会の「近代化」とともに、ひとびとはそれまで家族や地域社会で担っていた相互のいのちの世話を社会全体でおこなうようになった。出産や死亡、看病や看護は病院の医療スタッフが担うようになった。子どもの教育は学校のプロの教師に委託されるようになった。食材の調達や調理は流通産業やレストランが引き受けることになった。排泄物も農家の手を借りることなく自治体が敷設した下水道で処理する。地域のもめごとの最終的な解決は、区役所や弁護士にまかせる……。代わりにわたしたちは自治体に税金を納める。企業にサービス料を支払う。ひとびとの相互の世話は、このようにして自治体もしくは業者と住民とのサービスの授受関係となる。そう、サービスの提供者とサービスの消費者に。

いまあらためて顧みて、ひとびとが生き^{ながら}存えるためにどうしてもしなければならぬこと、たとえば出産の助け、食材の調達、排泄物の処理、病や傷の手当て、看護や介護、看取りや清拭やマイソウといったいのちをひとびとはどれだけじぶんたちの手でできるだろうか。ほぼすべてできないし、したことはないのではないか。生き存えるためにひとびとがどうしてもしなければならぬこと、けっして免除されることのないこと、つまりは《いのちの世話》の能力をわたしたちはほぼすべて失っている。それは地域社会のだけれがやってくれるからではなく、わたしたちが税金やサービス料を払って、これらをごとごとく行政サービスやサービス・ビジネスに委託してきたからだ。生き存えるために欠くことができない仕事を、じぶんではしなくなった、おたがいにやりあわなくなった。

事の経緯をいまずこし詳しく見ておこう。わたしたちには、生きるうえでどうしても削除できないいのちが少なからずある。出産、つまり種の再生産がそうだし、日々の食（食材の調達と調理）と排泄（糞便の処理）、つまり個の再生産がそうだ。生まれた子どもを養育し、教育すること、これも省きようのないことだ。病気になるときに治療し看病すること、高齢者を介護し、障^{しょうがい}碍のあるひとたちを介助すること、ともに生き存えてゆくうえで外せないことだ。そして看取り、見送り。これら生老病死にじかにかかわることだけではない。防災に防犯。そして住民たちのあいだのもめ事の解決、これらもまた、共同生活のなかでどうしても削除できないいのちだ。これらすべてを、わたしたちは長らく家族ならびに近隣のひとたちとともに、

ずにまっさきに病院へ連れてゆくことになった。ましてや災害時の排泄物の処理方法、雨水を飲料水に変える方法を知っているひとはほとんどいない。災害で食材の流通が止まったときも、じぶんたちで工夫して野山の植物を調理するのではなく、配給を待つだけだ。

以前、瀬戸内寂聴さんと講演会場の楽屋でお話しているとき、ふと、むかしの庶民の家にあっていまはないものに話が及んだ。で、とっさに浮かんだのが、わたしは救急箱、お相手は大工箱、この二つだった。わたしが子どもの頃は、どの家にも厚紙で作った引き出し付きの救急箱が押し入れにあって、富山の商人から買い受けた薬がぎゅうぎゅう詰めに入っていた。半年後か一年後にはおなじ行商人がまた、補充にやってきた。傷、肩こり、発熱、風邪、頭痛、歯痛、腰痛、腹痛、下痢、水虫……なんでもござれの箱だった。「陀羅尼助」とか「今治水」、赤チン、「ヨーチン」の香りの記憶は、どぶの臭いのそれとともに、いまも体の奥底に淀んでい^{IV}る。現在はどうかろう。ゲネツ剤や、頭痛、肩こり、生理痛用のジ^dョウビ薬は台所の引き出しに入っているが、「病氣」と名のつきそうなものは、家でまずは手当てを、とはだれも考えず、すぐに医院に駆け込むなり、タクシーを呼んで病院に走る。

大工箱には、鋸^{のこぎり}や鉋^{かん}、錐^{きり}や鑿^{のみ}や小刀が一揃い入っていた。薬が効能の見えないちよつと怖いものであったのに対して、大工道具は見た目には物騒だが、これを使いこなせないと大人になれないといった、ちよつとまぶしいものであった。砥石で研いだり、紙やすり（大人は「ペーパー」と呼んでいた）で磨いたりして道具を手入れするということが、一人前になる条件のよ^Vうに子ども心におもわれた。だから、チャンバラ用の刀とか、水遊びをするときの模型の船とかを、鋸や鉋を使って作ったものだった。そのなかで物への道具の当て方を体で憶えていった。（当時、女の子はどんな工作をしていたのか、していなかったのか、これについてはほとんど記憶がない。）そのような工作を子どもがしている姿を、いまはもう見かけることはない。

ちよつと大げさな言い方になってしまいうだが、身体環境を整えるという課題が、その頃はまだひとびとの手の内^Dにあった。料理はもちろん、服を作ることも（婦人雑誌にはかならずドレスメーカーキング用に布の裁断図が載っていた）、家を修理することも、子どものしつけや教育、病気の手当ても、ゴミや排泄物の処理も、近所での諍^{いさか}いを収めることも、みなじぶんたちの手でした。そして、まるでその総仕上げかシミュレーションのようなものとして、地域の行事や祭事があった。そして子どもたちにも、いずれそれを担ってもらわねばならないという理由

で、幼いうちから年齢に応じてそれなりの役をあてがった。

高度成長期から高度消費社会への移行のなかで、それら日常生活でかならずこなさなければならぬことが、行政の公共サービスや企業によるサービス業務にとって代わられるようになった。みずから体で憶え、果たすのでなく、サービスを選ぶのがわたしたちのいとなみとなった。金にかかるが「楽になった」のである。そしてちょうどそのぶん、わたしたちは無能力になっていった。世代から世代へ、《いのちの世話》の知恵とわざを伝える義務を免除されてきたその代価として、わたしたちは《いのちの世話》をみずからのおこなう能力を失った。「大人」と「子ども」の区別がつかなくなったのである。

では、トラブルが起こったとき、サービスが劣化したときにわたしたちにできることは何か。皮肉にも行政やサービス企業の担当者にクレームをつけることだけなのである。税金はちゃんと納めている、サービス料はきちんと支払っている、わたしたちの側に落ち度はない、だからサービスが停止したり劣化したりすればそれはサービスを提供する側の責任だ、というわけである。クレーマーは特別なひとたちではなく、わたしたちはセンザイ的にみなクレーマーでしかいられないのである。クレーマーは口汚くののしるが、それは見た目とは違い、まったく受け身の要求をしている。サービス・システムに対して、「われわれがもっと安心してぶら下がっていられるようにしてくれないと困る」と文句をつけるだけなのだから。

成熟した市民であれば、ここでクレームをつけると同時に、「そんなやり方ではだめだ。たとえばこういうやり方もあるはずだ」というふうに対案を示す。そのやり方にあきれ果てたら、「もうあなたたちにはまかせられない。少々リスクはあってもこれからはじぶんたちで、地域でやるから、そのぶんの負担金は引き上げる」というふうには、サービス業務そのものをじぶんたちの手に引き戻す。

じぶんたちが生き延びるために絶対に削除できない《いのちの世話》を、行政や企業に全面的に譲り渡さないこと。この気概と仕組みをわたしたちは長らく放棄したままであった。そのことのつけがこうした市民生活の未熟さ、ないしは劣化をもたらした。わたしたちはいのちをシステムにあずけすぎてきたのである。

問一 文中の傍線部 a～e に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それ

ぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、1 ～ 5。

a
マイソウ

1

- ① セイマイの機械
- ② タイマイをはたく
- ③ 日常にマイボツする
- ④ マイマイのことだ
- ⑤ アイマイな態度

b
ハウソウ

2

- ① グンソウの命令
- ② ソウカイな気分
- ③ ゲンソウ的な世界
- ④ ソウソウ期の会社
- ⑤ 冬山でソウナンする

c
ゲネツ

3

- ① 好意をムゲにはできない
- ② フマンゲな顔つき
- ③ ウブゲを剃そる
- ④ 怪しいヘンゲの者
- ⑤ ゲドク作用がある

d
ジョウビ

4

- ① ジョウジヨウ酌量
- ② 逮捕レイジヨウ
- ③ 聡明なレイジヨウ
- ④ ヨジヨウ金
- ⑤ 博物館のジヨウセツ展

e
センザイ

5

- ① センサイな神経
- ② センブク期の長さ
- ③ センザイ一遇の好機
- ④ ラセン階段
- ⑤ センボウのまなざし

問二 傍線部A～Eの語の文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のう

ちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

6

10

A 一身に担う

6

- ① 外からの介入を許さないこと
- ② 自分だけで支えること
- ③ 一生懸命に働くこと
- ④ 自分だけで独り占めすること
- ⑤ 自分だけが頼られる存在になること

B クオリティ

7

- ① 理想が高いこと
- ② 多くの要素で構成されていること
- ③ 上品なこと
- ④ 生産性が高いこと
- ⑤ 内容が充実していること

C アメニティ

8

- ① 環境の快適さ
- ② 福祉の充実度
- ③ 行き届いたサービス性
- ④ 人々の賑わい
- ⑤ 危機管理の信頼度

D 手の内にあつた

9

- ① ほとんどの問題を解決する心構えでいた
- ② 問題を解決することは考えられなかった
- ③ どんな問題も充分解決できる腕前があつた
- ④ 問題解決の腕前を少しは持っていた
- ⑤ 問題解決の方法をある程度は知っていた

(次頁に続きます)

E 劣化

10

- ① 時が経つに連れて品質などが落ちてくること
- ② 時間が経つと最初の熱意を忘れがちになること
- ③ 時間に伴い人間がなまけるようになること
- ④ 時間とともに慣れ、仕事の正確さが失われること
- ⑤ 時が経過すると人間の記憶がうすれること

問三 傍線部Ⅰ「国民の知力、体力の向上」のために当時の国家がしたことは何ですか。最も

適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

11。

- ① 国民の《いのちの世話》をそれぞれの自治体に任せること
- ② 国民の《いのちの世話》を自分でできるように教育すること
- ③ 国民の《いのちの世話》を部分的に国家が担うこと
- ④ 国民の《いのちの世話》をそれぞれの専門家を養成して任せること
- ⑤ 国民の《いのちの世話》を担当者を決めて分担させること

問四 傍線部Ⅱ「システムティックに担う」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のう

ちから一つ選びなさい。解答番号は、

12。

- ① システムを作動させながらケースに応じて処理する
- ② システムを構築しそれに従って処理する
- ③ システムに則り機械的に平等に処理する
- ④ システムに乗せて一度に大量に処理する
- ⑤ システムを想定して、それを基準に処理する

問五 傍線部Ⅲ「《いのちの世話》のプロフェッショナルを国家が養成」したことによって国

民が失ったものを筆者はどう説明していますか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

13。

- ① 《いのちの世話》を自力で行うことができる能力
- ② 《いのちの世話》を自分でしなければならぬという意識
- ③ 《いのちの世話》をしたり見聞きしたりした経験
- ④ 《いのちの世話》をお互いがやり合おうという絆きずな
- ⑤ 《いのちの世話》はとて大変なことだという認識

問六 傍線部Ⅰ～Ⅲの現象を筆者はどういうことの一部だと論じていますか。その説明として

最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

14。

- ① 明治以降の日本国家の富国強兵の基本方針
- ② 明治以降の日本国家の都市重点政策
- ③ 明治以降の日本国家の殖産興業の発展
- ④ 明治以降の日本国家の行政機関の制度化
- ⑤ 明治以降の日本国家の急速な近代化政策

問七 傍線部Ⅳ「どぶの臭いのそれとともに、いまも体の奥底に淀んでいる」の説明として最

も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

15。

- ① 消毒用の「ヨーチン」の香りと近所のどぶの臭いは、筆者には子供の頃の大切な思い出として記憶されている。
- ② 消毒用の「ヨーチン」の香りと近所のどぶの臭いの記憶は、筆者にとってどちらも子供の頃の懐かしい記憶である。

(次頁に続きます)

- ③ 消毒用の「ヨーチン」の香りと近所のどぶの臭いは、筆者には似通った臭いとして記憶されている。
- ④ 消毒用の「ヨーチン」の香りと近所のどぶの臭いは、筆者にとっていつまでも忘れられない子供の頃の記憶である。
- ⑤ 消毒用の「ヨーチン」の香りと近所のどぶの臭いは、筆者にとっていつでも感覚的に呼び覚ますことのできる記憶である。

問八 傍線部V「ちよつと怖いもの」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから

一つ選びなさい。解答番号は、

16。

- ① 薬は、大人も慎重に用いているので子どもはそれを見て自然に不安を感じるもの
- ② 薬は、使い方を間違えると危険だと大人からさわらないように言われているもの
- ③ 薬は、効果が使う人の体調に左右されるのでどっちみちあてにならないもの
- ④ 薬は、使った場合の効果がまちまちなのであたりはずれがあるもの
- ⑤ 薬は、効果が子どもの目に具体的に見えないので信頼できず不安なもの

問九 傍線部VI「ちよつとまぶしいもの」の理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうち

から一つ選びなさい。解答番号は、

17。

- ① 大工箱の道具を使う大工さんは子どものあこがれの職業だったから
- ② 大工箱の道具を使いこなす大人を見ていて感心していたから
- ③ 大工箱の道具を勝手に使ってはいけないときびしく言われていたから
- ④ 大工箱の道具を安全に使いこなす自信がなかったから
- ⑤ 大工箱の道具は重そうで怪我などの危険が伴うと感じられたから

問十 傍線部Ⅶ「受け身の要求」の理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号は、

18。

- ① 口汚くののしることで表面上は強く出ているように見えるが、税金やサービス料を《いのちの世話》のために支払ったことを今では後悔している。
- ② 口汚くののしることで表面上は強く出ているように見えるが、行政や企業に委ねたので《いのちの世話》の仕事を取り返したいと願っている。
- ③ 口汚くののしることで表面上は強く出ているように見えるが、《いのちの世話》を自分でする能力を失ったので、行政や企業に対して対抗措置を持たない。
- ④ 口汚くののしることで表面上は強く出ているように見えるが、自分で《いのちの世話》を行う能力も気概もなくして自暴自棄になっている。
- ⑤ 口汚くののしることで表面上は強く出ているように見えるが、税金やサービス料を納めたので、《いのちの世話》を行政や企業に委ねた見返りを求めている。

問十一 次の①～⑦のうちから、筆者の主張に合致しないものを二つ選びなさい。 解答番号は、

19

20

。(順不同)

- ① 日本人は急速な近代化によって、《いのちの世話》を行政や企業に委ねて効率的に行い、生活のクオリティとアメニティを手に入れた。
- ② クレーマーは自分がクレーマーであることに気づかない。
- ③ 救急箱や大工箱に代表される昔の人の知恵は大切だったのだ。
- ④ 日本人は《いのちの世話》を自分で行う能力をなくしてしまった。
- ⑤ 《いのちの世話》の能力はいったん失われてしまっているのもう取り戻すことはできない。
- ⑥ 行政や企業を頼りすぎず、基本的な《いのちの世話》を自分でやろうという気概が必要だ。
- ⑦ 成熟した市民は、一度行政や企業に預けた《いのちの世話》を、自分たちのもとに取り戻せるはずだ。

問一 次の電話での会話の空欄ア～オに入る敬語を用いた表現として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

21

～

25

。

A…はい、友野商事でございます。

B…こちら、あけぼの運輸の中村と申しますが、いつもお世話になっております。

A…こちらこそお世話になっております。

B…あの、大橋部長はいらっしゃいますか。

A…申し訳ございません。(ア)。午後三時には戻る予定でございますが。

B…そうですか。それではお戻りになりましたら、(イ)。

A…(ウ)。私、三井が承りました。恐れ入りますが、(エ)。

B…あけぼの運輸の中村と申します。こちらの電話番号は、大橋部長が(オ)。よろしく
お願いいたします。

A…あけぼの運輸の中村様でございますね。ありがとうございます。それでは失礼いたしま
す。

21

ア

- ① 大橋部長はただいま会議中でございます
- ② 大橋部長はただいま会議に出席していらっしゃいます
- ③ 部長は今お取り込み中です
- ④ 大橋はただいま会議中でございます
- ⑤ 大橋はただいま会議にご出席されておりまして

22

イ

- ① ご連絡いただくようにお伝えいただけますか
- ② ご連絡いたすようにお伝えいただけますか

- ③ ご連絡していただけるようにお伝えいただけますか
- ④ ご連絡なされるようにお伝えいただけますか
- ⑤ ご連絡してもらおうようにお伝えいたしませんか

23

ウ

- ① お申し伝えしていただけます
- ② 了解です。お伝えなさいます
- ③ 完了しました。申し伝えます
- ④ 承知いたしました。申し伝えます
- ⑤ 承知いたしました。お伝えされます

24

エ

- ① もう一度お名前を申されますか
- ② もう一度お名前を伺えますか
- ③ もう一度お名前を申し上げられますか
- ④ もう一度お名前をお聞きしませんか
- ⑤ もう一度お名前をお伺いされてもよろしいですか

25

オ

- ① お知りしています
- ② お知りなされています
- ③ 存じ上げております
- ④ ご存知です
- ⑤ ご存知上げです

問二 次のA～Eの慣用的表現の空欄に最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

26

く

30

。

26

A 彼にとってその資料は（ ）から手が出るほど欲しいものだったに違いない。

- ① 口 ② つむじ ③ のど ④ 頭 ⑤ 腹

27

B 暗闇から急に自転車がとびだしてきて（ ）を冷やしたよ。

- ① 頭 ② 肝 ③ 腸 ④ 額 ⑤ 汗

28

C 犯人がゴミ箱に捨てたレシートから（ ）が付いて逮捕に至った。

- ① 身 ② 手 ③ 目 ④ 足 ⑤ 胸

29

D 料理に関しては（ ）に覚えがあるので、まかせてください。

- ① 口 ② 身 ③ 腕 ④ 腹 ⑤ 舌

30

E 理由を聞いても（ ）にものが挟まったような言い方ではっきりしない。

- ① 脇 ② 両足 ③ 指の間 ④ 奥歯 ⑤ まぶた

問三 次のコラムは、▼を付した最初と最後の段落以外は順序が正しくありません。これを読んで、後の問いに答えなさい。

▼ いまから37年前のアンケートである。テレビ電話やファクシミリの発達で近い将来、在宅勤務が広がるとみられるが、あなたは望みますか？週休2日が確保されるのであれば望ましい――。そんな答えが40%で最も多かった。

① 時代が進んで、インターネット、パソコン、スマホが現れたが、在宅勤務が劇的に広がったとは言えない。職場以外で仕事をする意味のテレワークに名前が変わり、育児や介護など

との両立にも役立つと、旗が振られる。

② 米ニューヨークで働く人にスニーカーが多いのは、1980年の地下鉄とバスの長期ストがきっかけになったようだ、と以前書いた。長い距離を歩くのを強いられ、疲れにくい靴に履き替えた。五輪だって突破口になる可能性はある。

③ 「仕事を家庭に持ち込みたくない」という気持ちの表れだと、当時の新聞にある。通勤地獄を甘受しても、線引きをしたいようだ。一方で、週の半分程度の在宅勤務を希望するという答えも31%あり、期待感もにじんんでいた。

④ 首都圏では東京五輪の混雑緩和という役割も担う。いまは1年前の予行演習の時期で、取材先に電話すると「きょうはテレワークで不在です」と言われることもある。五輪の本番ではさらに広がるかもしれない。問題は、その後も持続するかどうかだ。

▼ 働き方も家庭のあり方も、どんどん変わっている。「子どもにおかえりを言うために、きょうはテレワークにします」。そんなふうには父たち母たちが、気軽に言えるようになれば。

(天声人語(朝日新聞、2019年7月31日) 承諾書番号(20-999) 朝日新聞社に無断で転載することを禁止する。)

(1) それぞれの段落を正しく並べると、順序はどうなりますか。それぞれの位置に入る最も適当なものを、①～④のうちから一つずつ選びなさい。(完全解答) 解答番号は、

34。

31

▼最初の段落― (31) ― (32) ― (33) ― (34) ― ▼最後の段落

(2) 正しく並べられたコラム全体のタイトルとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

35。

- ① 在宅勤務からテレワークへ
- ② 五輪と在宅勤務

(次頁に続きます)

- ③ ニューヨークの在宅勤務事情
- ④ 在宅勤務は普及するか
- ⑤ 働き方改革の全体像と在宅勤務

以上で問題は終わります。